

## 2年次の振り返り

### 目標 1. 日常生活援助技術を積極的に身に付けることができる。

		評価
1年次不合格技術の習得	<p>期間：2019.5.10（金）～7.27（金）</p> <p>対象者：技術未習得者</p> <p>方法：期間を定め技術試験を実施</p>	<p>7月の技術試験日に合格することができなかった学生も数名いたが、指導・助言を続け、2月の臨地実習までに全ての学生が1年次の基礎看護技術を習得することができた。計画的に練習を実施することが難しかったり、練習相手を確保することが難しかったり、技術練習を行うにあたっての学生の課題は様々なため、今後も各々の課題に応じた支援が必要であると考ええる。</p>
日常生活援助技術	<p>期間：2019.5月～</p> <p>対象者：全員</p> <p>方法：1年次に学習した基礎看護技術の手順と根拠の復習（3年生との合同グループで練習とリフレクションの実施）</p>	<p>3年生との合同グループでの練習は上級生主体で計画的に実施していくことができたグループと、上級生との関係性構築がうまくできず戸惑いを感じたり、効果的な練習・リフレクションを実施することができなかったグループとがあり、グループ間で差が出たようである。しかし2月の臨地実習前にはクラスメイトと練習に取り組む学生が多くみられ、臨地実習後は上級生の技術発表会に参加し積極的に質問をする学生の姿もあった。技術練習の取り組みは実習経験が大きく関係する。今後は学生が日常生活援助技術の習得に向け計画的な練習に取り組んでいけるよう、より具体的に実習（実践）をイメージできるような関わりが必要であると考ええる。</p>

### 目標 2. 基礎分野・専門基礎分野・専門分野を関連づけた学習ができる。

		評価
脳navi	<p>期間：1回／月</p> <p>対象者：全員</p>	<p>3月に実施したアンケートで回答を得た学生のうち、脳naviの時間を活用できた・どちらかと言うと活用できたと答えた学生は8割程度であった。具体的には講義よりもより具体的な内容の学習ができた、テスト対策に役立ったという回答</p>

		が多かった。どちらかと言うと活用できなかったと答えた学生の中には、出席数が少なかったから、聴くだけで自分の知識にすることはできなかった、時間が短く内容が中途半端なことがあったといった回答があった。初回はグループワーク形式、初回の反応から2回目以降は講義形式と変更し実施してきたが、参加率の平均は50%程度にとどまった。年間スケジュールとして提示していた時間であったが、脳naviの時間の学習効果や必要性を学生自身がより感じる内容・方法としていくことが課題であると考ええる。
模擬試験の実施	期間：3月 内容：病態生理を中心とした内容 (業者模試)	3月日病態生理の模擬試験を実施した。 (科目別実力テスト) 平均点⇒必修問題6.0/10点(全国平均：6.3) 一般問題35.2/80点(全国平均：40.0) 必修・一般ともに得点率が低い。病態生理は講義で学習済みではあるが、知識の定着にはつながっていないことがわかる。偏差値45.7で全国の平均(50.0)を下回る結果であるが、個人差が非常に大きく、日頃の科目修了試験結果が模擬試験結果にもつながっていることが明らかである。科目毎の知識の定着を確実にしていく学習支援が必要である。
H31年3月の解剖生理学模試を再試験	実施日：冬季休業中 (学習課題として)	誤答した問題と自信のない問題の調べ学習も必須課題とした。学習方法は様々で解答を写しただけの勉強法になっている学生もいた。正答率は49.5%にとどまり、正答率70%以上の学生と30%前後の学生と二極化の結果であった。模擬試験後の学習が知識の定着につながるよう具体的な助言・指導が必要であると考ええる。
学習課題学生の個別指導	対象者：科目試験平均75点以下の学生 実施日：適宜 科目試験見直し会実施時	科目試験の平均点75点以下の学生がクラスの半数を占める状況にあり、科目試験の再試験対象者が多い科目に対して見直し会を適宜実施した。問題・解答、

		言葉の暗記に頼り、講義内容の理解ができていない学生、試験日直前にしか学習に取り組むことができていない学生が多いことが大きな課題である。特に科目試験の平均点が60点台の学生に対しては今後、学習計画・実施状況の把握と支援が必要であると考えます。
長期休業中の学習会の実施	実施日：8月2日・3日 対象者：希望者	事前に学習会の内容の希望を取り実施したが、2日間とも参加者は10名足らずで、特に学習支援が必要と考える学生は不参加であった。対象を希望者としたため、アルバイトや私用を優先した学生が多かった。学習支援が必要と考える学生個人への声かけ、アルバイトが調整できるよう1カ月以上前に具体的な学習会の方法や時間の提示を行い、長期休業中の学習会が学生にとって効果的になるようにしていきたい。

目標3. 対人関係・協力関係が円滑にとれ、看護への思いを明確に持つことができる。

		評価
支え合う関係性の力	1. 期間：通年 方法：面談・個別対応 レクリエーションの実施 宣誓式・実習に向けた意識づけの取り組み（看護師としての社会人基礎力振り返りシートの活用）	前期 HR ではレクリエーション・他己紹介メッセージを実施。宣誓式や実習に向けてクラスの良い雰囲気作りが行えたと考える。後期は宣誓式までの準備を学生主体で進めることで、宣誓式後のアンケートではクラスがまとまり始めた、意見を言い合える雰囲気が出てきたといった感想があがっていた。看護師としての社会人基礎力振り返りシートはビジョンゴールシート提出時に振り返りをして提出とした。発信力や働きかけ力を弱く感じている学生が多く、実習が不安という思いを持っている学生も多かったが、振り返りに気になるコメントがあった学生には声をかけたり話をする機会へとつなげることができた。2年次のゴールとしてあげた1つ『クラスで協同し、1年を過ごすことができたという達成感を得ることができる』に対する学生評価は達成度

		60%以上と回答した学生が半数以上であった。1年をかけて支え合う関係性の力をつけることはできたのではないかと考える。
クラスでの 取り組み成 果の公表	方法：オープンスクール・学校祭・展示・ HPへの掲載など	宣誓式や実習に向けた様子をHPに適宜掲載をした。また、オープンスクールや学校祭終了後は、学生の取り組みに対しての他者からの評価を伝えるようにした。学校行事で中心的役割を担う経験を通して、対人関係や協力関係の構築の難しさを感じながらも自信をつけていくことができていったと考える。
自己の振り 返り	時期：6月・9月・12月・3月 方法：ビジョンゴールシート、看 護師としての社会人基礎力 振り返りシートの活用	自己の振り返りを行う機会を4回／年設けた。振り返りシートで自己を振り返る機会を定期的に振り返ることで、口頭では表出されることがなかった素直な感情や考えを表出している学生もおり、個々の支援につなげることができた。4月に記載したビジョンゴールシートは具体的計画や取り組みに対する評価を追記していきながら活用できた学生はほとんどおらず、取り組み状況や活用方法を面接時等で助言を行うことが必要であると考え